

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-68899

(P2010-68899A)

(43) 公開日 平成22年4月2日(2010.4.2)

(51) Int.Cl.

A61J 1/14 (2006.01)

F I

A61J 1/00 39OR

テーマコード (参考)

4C047

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2008-237615 (P2008-237615)
 (22) 出願日 平成20年9月17日 (2008.9.17)

(71) 出願人 000002897
 大日本印刷株式会社
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
 (74) 代理人 100111659
 弁理士 金山 聡
 (74) 代理人 100135954
 弁理士 深町 圭子
 (74) 代理人 100119057
 弁理士 伊藤 英生
 (74) 代理人 100122529
 弁理士 藤枿 裕実
 (74) 代理人 100131369
 弁理士 後藤 直樹

最終頁に続く

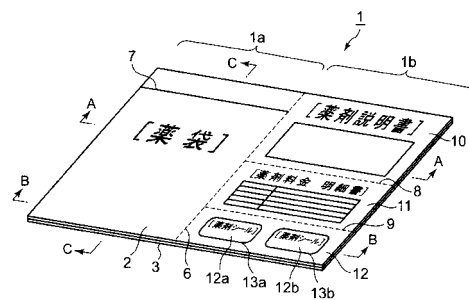
(54) 【発明の名称】 薬袋

(57) 【要約】

【課題】患者に薬袋と薬剤情報を一体化させて渡せるようにしてマッチングミスの防止を図り、またマッチング作業の省略を図れるようにした薬袋を提供する。

【解決手段】2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分で接着及び粘着されて、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化され、薬袋部材と薬剤情報表示部材とは、2枚の矩形状の用紙に形成された切り取り用ミシン目により切り取り可能に構成され、薬袋部材は、重ねられた2枚の用紙の四周縁部に設けられた接着剤により接着されて袋状に形成され、更に、重ねられた2枚の用紙の一方に形成された切込みにより薬剤を封入する開口部が設けられ、薬剤情報表示部材は、重ねられた2枚の用紙が接着剤で接着された接着部と、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙の裏面に塗布された粘着剤により、貼り替え可能に貼付されたシール部分と、を有する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分で接着及び粘着されて、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられた薬袋であって、

前記薬袋部材と前記薬剤情報表示部材とは、前記2枚の矩形状の用紙に形成された切り取り用ミシン目により切り取り可能に構成され、

前記薬袋部材は、重ねられた2枚の用紙の四周縁部に設けられた接着剤により接着されて袋状に形成され、更に、重ねられた2枚の用紙の一方に形成された切込みにより薬剤を封入する開口部が設けられ、

前記薬剤情報表示部材は、重ねられた2枚の用紙が接着剤で接着された接着部と、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙の裏面に塗布された粘着剤により、貼り替え可能に貼付されたシール部分と、を有することを特徴とする薬袋。

【請求項 2】

前記シール部分は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠により形成され、前記シール部分の用紙の裏面に粘着剤が設けられて、他の用紙から剥離可能に構成され、

前記薬剤情報表示部材の接着部分の表面には、前記薬袋部材に収納する薬剤情報として、薬剤説明情報と薬剤料金情報とを表示する表示領域が設けられていることを特徴とする請求項1記載の薬袋。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分に接着部と粘着部を設けることで接着一体化され、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、を有している薬袋に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、薬局や病院などにおいて患者が持参した処方箋に基づいて処方した薬剤を出す際に、薬袋などに、薬剤料金明細書、薬剤説明書などをプリント出力するための、表面にプリント面を有する薬袋が既に提案されている。（例えば、特許文献1、2参照）

また、最近では、服用している薬剤の履歴を記入する薬剤手帳が普及しており、記入の手間を省くために、薬剤名をプリンタで印字した薬剤シールを用いる薬局もある。

【0003】

しかしながら、患者に渡す薬袋と共に、薬剤料金明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を用意する場合には、薬袋と、それらの媒体と、をマッチングさせる際にミスが発生する危険性や、また正確にマッチングさせるために作業時間がかかるなどの問題がある。

特に、大きな規模の病院に近い薬局では、多くの患者が薬局に訪れるために込み合うこともあり、患者の待ち時間をできるだけ短くすると共に、間違いなく処方箋通りの薬剤を用意して提供する必要があるため、従来の方法では正確性にも不安があった。

【0004】

【特許文献1】特開2000-190984号公報

【特許文献2】特開2006-34523号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

そこで、本発明は、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、薬剤料金

10

20

30

40

50

明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を一体化させて渡せるようにして、マッチングミスの防止を図り、またマッチング作業の省略を図れるようにした薬袋を提供する。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の薬袋は、2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分で接着及び粘着されて、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられた薬袋であって、前記薬袋部材と前記薬剤情報表示部材とは、前記2枚の矩形状の用紙に形成された切り取り用ミシン目により切り取り可能に構成され、前記薬袋部材は、重ねられた2枚の用紙の四周縁部に設けられた接着剤により接着されて袋状に形成され、更に、重ねられた2枚の用紙の一方に形成された切込みにより薬剤を封入する開口部が設けられ、前記薬剤情報表示部材は、重ねられた2枚の用紙が接着剤で接着された接着部と、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙の裏面に塗布された粘着剤により、貼り替え可能に貼付されたシール部分と、を有することを特徴とする。

10

【0007】

また、本発明の薬袋は、前記シール部分は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠により形成され、前記シール部分の用紙の裏面に粘着剤が設けられて、他の用紙から剥離可能に構成され、前記薬剤情報表示部材の接着部分の表面には、前記薬袋部材に収納する薬剤情報として、薬剤説明情報と薬剤料金情報とを表示する表示領域が設けられていることを特徴とする。

20

【発明の効果】

【0008】

本発明の薬袋は、2枚の矩形状の用紙が重ねられ、所定部分で接着及び粘着されて、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられているので、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、プリント出力させた薬剤情報を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができ、またマッチング作業の省略を図ることができるという効果がある。

30

【0009】

また、本発明の薬袋は、重ねられた2枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠によりシール部分が形成され、また薬剤情報表示部材の接着部分の表面に、前記薬袋部に収納する薬剤情報として、薬剤説明情報と薬剤料金情報とを表示する表示領域が設けられているので、薬剤料金明細書、薬剤説明書、薬剤シールなど各種のプリント出力媒体を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができ、またマッチング作業の省略を図ることができるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本発明の実施形態に係る薬袋を図面に基づいて詳細に説明する。

40

図1は、本発明の実施形態に係る薬袋の斜視図、図2は、図1のA-A線断面図、図3は、図1のB-B線断面図、図4は、図1のC-C線断面図、図5は、本発明の実施形態に係る薬袋を分解させた場合を示す斜視図、図6は、本発明の実施形態に係る薬袋の使用方法を示し、薬剤の封入と、必要なプリント出力を行なった状態を示す斜視図、図7は、本発明の実施形態に係る薬袋の使用方法を示し、薬袋を切り取り、薬剤シールを貼り替えた状態を示す斜視図である。

【0011】

本発明の実施形態に係る薬袋1は、図1に示すように、2枚の矩形状の用紙2, 3が重ねられて、所定部分において接着剤4が塗布された接着部において接着され、また、粘着剤5が塗布された粘着部において剥離可能に粘着されていることで一体化されている。

50

そして、薬袋 1 は、切り取り用ミシン目 6 を介して薬袋部材 1 a と、薬剤情報表示部材 1 b と、の部分有しており、まず、薬袋部材 1 a には、薬剤を封入する開口部 7 が施され、また、薬剤情報表示部材 1 b は、該薬袋部に収納する薬剤情報をプリンタ出力により表示する表示領域を有している。

薬袋部材 1 a に設けられた開口部 7 は、重ねられた 2 枚の用紙の一方の用紙に切込みを形成することで設けられ、薬袋部材 1 a の表面には、この袋が薬袋であることを示すために「薬袋」などの表示が施されている。

したがって、患者は、薬剤情報を確認した後に、必要に応じて切り取り用ミシン目 6 から切り離すことで、必要に応じて薬袋部材 1 a による薬袋だけを所持することができるように構成されている。

10

【0012】

次に、薬剤情報表示部材 1 b は、横方向に所定間隔を空けて 2 本の切り取り用ミシン目 8, 9 が形成されており、これらの切り取り用ミシン目 8, 9 により、上側から順番に、薬剤説明書領域 10 と、薬剤料金明細書領域 11 と、薬剤シール領域 12 と、に区別されている。

そして、薬剤説明書領域 10 には、処方箋に基づいて処方した薬局などが、この薬袋に収納させる薬剤に関する説明情報をプリンタ出力する。

また、薬剤料金明細書領域 11 は、この薬袋に収納させる薬剤に関する料金情報をプリント出力させるための領域である。

更に、薬剤シール領域 12 は、重ねられた 2 枚の用紙の一方の用紙を剥離させて、貼り替え可能とする薬剤シール部分 12 a, 12 b を有する。

20

このシール部分は、重ねられた 2 枚の用紙の一方の用紙に形成された切込み枠 13 a, 13 b により形成されている。

また、この実施形態では、2 つのシール部分 12 a, 12 b を設けた場合について説明しているが、必要に応じてシール部分をいくつでも設けることができる。

【0013】

次に、重ねられた 2 枚の矩形状の用紙 2, 3 の間に設けられた接着部及び粘着部について、図 5 に基づいて説明する。

図 5 には、重ねられた 2 枚の矩形状の用紙 2, 3 の間における接着部領域 4 a と、粘着部領域 5 a との位置関係がわかるように、2 枚の矩形状の用紙 2, 3 を分離させた状態の斜視図が示されている。

30

まず、重ねられた 2 枚の矩形状の用紙 2, 3 の間の接着部領域 4 a について説明する。

接着部領域 4 a は、薬袋 1 の薬袋部材 1 a と薬剤情報表示部材 1 b とにそれぞれ設けられている。

まず、切り取り用ミシン目 6 から左側にある薬袋部材 1 a においては、用紙 3 上の四周縁部に接着剤 4 が設けられており、この接着剤 4 により 2 枚の矩形状の用紙 2, 3 が接着されることで、四周が密封された袋が形成されている。

【0014】

次に、切り取り用ミシン目 6 から右側にある薬剤情報表示部材 1 b において、上側に位置する矩形状の用紙 2 の薬剤説明書領域 10 及び薬剤料金明細書領域 11 に該当する領域が接着剤 4 による接着領域となる。

40

【0015】

次に、粘着部領域 5 a は、切り取り用ミシン目 6 から右側にある薬剤情報表示部材 1 b において、上側に位置する矩形状の用紙 2 の薬剤シール領域 12 に該当する領域が粘着部領域 5 a となる。

そして、粘着部領域 5 a に該当する用紙 2 の裏面側には、粘着剤 5 が塗布されている。

また、2 つのシール部分 12 a, 12 b を用紙 3 から剥離可能とするために、2 つのシール部分 12 a, 12 b に該当する用紙 3 の上面側に剥離剤層を設けておくことが好ましい。

なお、2 つの薬剤シール部分 12 a, 12 b が、用紙 3 の上面側から剥離可能であれば

50

、必ずしも剥離剤層を設ける必要はない。

【 0 0 1 6 】

次に、図 6 及び図 7 に基づいて、本発明の実施形態に係る薬袋 1 の使用方法について説明する。

まず、患者から提出された処方箋により薬剤を処方する薬局は、薬袋 1 をプリンタにセットして薬剤情報表示部材 1 b の表面に対して、薬剤説明書領域 1 0、薬剤料金明細書領域 1 1、薬剤シール領域 1 2、の各領域に必要な薬剤情報をプリント出力する。

また、薬剤シール領域 1 2 の薬剤シール部分 1 2 a , 1 2 b の表面には、収納されている薬剤の名称や服用する時間や条件などをプリント出力させておくことで、患者が何時、どの薬剤を服用すればよいのかがわかるようにしてある。

10

【 0 0 1 7 】

次に、薬袋 1 の薬袋部材 1 a の開口部 7 から、処方する薬剤 1 5 を入れて収納させて、薬剤 1 5 を患者に渡す。

図 7 に示すように、患者は、薬袋 1 を受け取った後に、薬剤シール部分 1 2 a , 1 2 b を剥離させて、薬袋部材 1 a の所定部分に貼付させる。

そして、切り取り用ミシン目 6 から薬袋部材 1 a と薬剤情報表示部材 1 b とを切り離す。

これにより、患者は、薬剤シール部分 1 2 a , 1 2 b が貼付された薬袋部材 1 a を所持して、必要に応じて薬剤を服用する。

【 0 0 1 8 】

20

上記のように、本発明の実施形態に係る薬袋 1 は、薬剤を封入する開口部が施された薬袋部材と、該薬袋部に収納する薬剤情報を表示する薬剤情報表示部材と、が一体化されて設けられているので、薬剤を収納させる薬袋と共に、その薬袋に収納させた薬剤に関する薬剤情報をプリント出力して患者に渡したい場合でも、患者に渡す薬袋と共に、プリント出力させた薬剤情報を一体化させて渡すことができ、マッチングミスの防止を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 9 】

【図 1】本発明の実施形態に係る薬袋の斜視図である。

【図 2】図 1 の A - A 線断面図である。

30

【図 3】図 1 の B - B 線断面図である。

【図 4】図 1 の C - C 線断面図である。

【図 5】本発明の実施形態に係る薬袋を分解させた場合を示す斜視図である。

【図 6】本発明の実施形態に係る薬袋の使用法を示し、薬剤の封入と、必要なプリント出力を行なった状態を示す斜視図である。

【図 7】本発明の実施形態に係る薬袋の使用法を示し、薬袋を切り取り、薬剤シールを貼り替えた状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

【 0 0 2 0 】

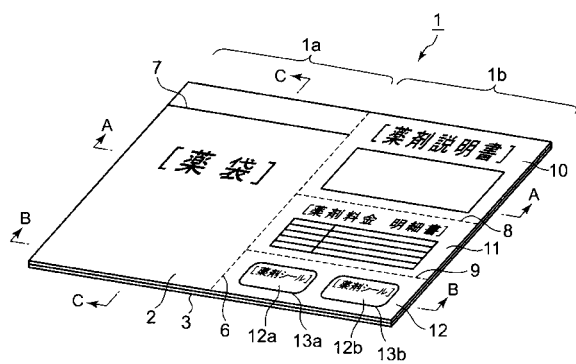
- 1 薬袋
- 1 a 薬袋部材
- 1 b 薬剤情報表示部材
- 2 , 3 矩形状の用紙
- 4 a 接着部領域
- 4 接着剤
- 5 a 粘着部領域
- 5 粘着剤
- 6 , 8 , 9 切り取り用ミシン目
- 7 開口部
- 1 0 薬剤説明書領域

40

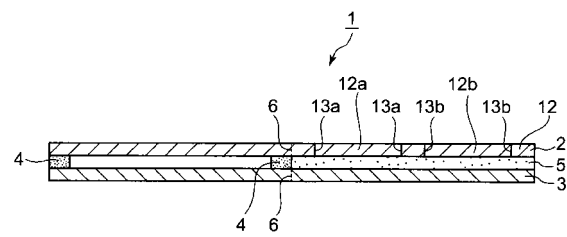
50

- 1 1 薬剤料金明細書領域
- 1 2 薬剤シール領域
- 1 2 a , 1 2 b 薬剤シール部分
- 1 3 a , 1 3 b 切込み枠
- 1 5 薬剤

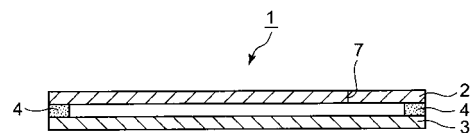
【図 1】



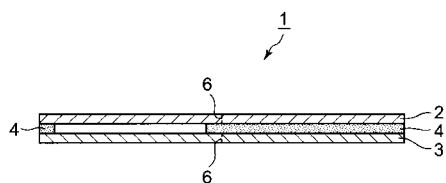
【図 3】



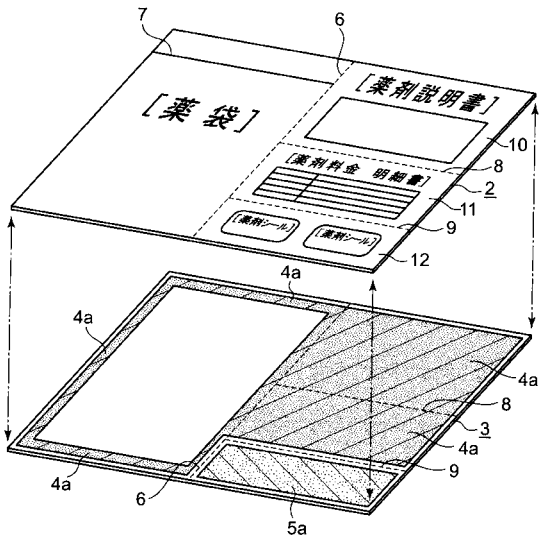
【図 4】



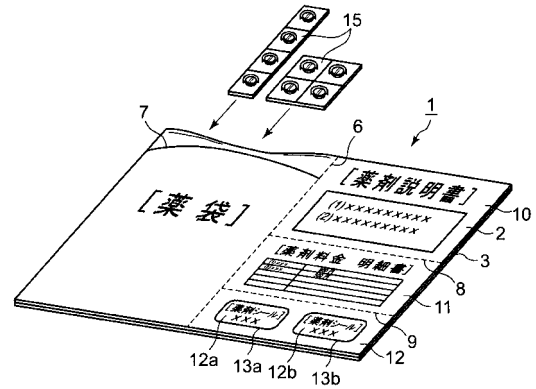
【図 2】



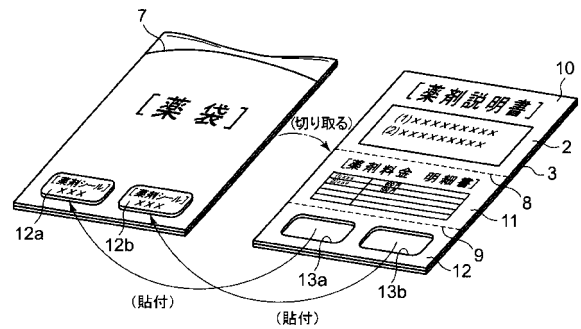
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(72)発明者 宮内 俊輔

東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号 大日本印刷株式会社内

Fターム(参考) 4C047 AA32 BB08 CC03 DD27 DD30